

上川管内

ひなたじんだいかぐら 日向神代神楽

民俗芸能団体：日向神代神楽愛好会（士別市）

解説



明治35年（1902年）に山形県などから
たよる ひなた多寄の日向地区に入植した団体が、明治
41年（1908年）頃、同地区に入植した岩
手県の阿部鹿蔵という人物に娯楽として
教わったことが始まりである。

使用している楽器は、太鼓と鐘であり、以前は笛があったと言われている。演
目は全部で9つあったとされているが、現在に伝わっているのは4演目のみで
ある。舞は、古事記や日本書紀にみられるじんだい神代の内容をテーマにしたものとなっ
ている。その舞は、岩手県一関に伝わる南部神楽をルーツに持つだいもん大門神楽の原型
を伝えるものではないかと考えられる。

例年、多寄神社祭や中多寄神社祭、多寄町文化祭など、地元の行事の際には

さんばそう三番叟や宝剣納めを実演している。

※神代（じんだい）～神話時代。神が支配していたという時代。

※三番叟（さんばそう）～天下泰平を祈る儀礼曲「翁（おきな）」の後半部分。